

## オルガノン（§ 185～195）要約

§ 185 局所的＝外部の病気は、それだけで存在しているわけではない。

§ 186 外傷などの局部的症状に外科的処置をするのは必要。

§ 187 しかし些細な傷から始まる症状の中には、内的な原因によるものもある。それに対して、局部的治療だけで済まして来たのがこれまでの医学である。

§ 188 これまでの医学では、これらは他の部分とは全く無関係に生じるとされている。これは通常医学の有害で危険な大愚の一つである。

§ 189 しかし外傷なしに起こる表面的な症状は必ず内的な原因があるはずである。

§ 190 外傷によらない外的な症状は内部から全体的に治療する必要がある。つまりレメディが必要になる。

§ 191 適切なレメディはしばしば最も外的な症状にも変化を引き起こす。そしてその後、その人全体の健康の回復をもたらす。

§ 192 局所的症状だけでなく、全体的症状を調べてレメディを選ぶこと。

§ 193 局所的な症状であっても他の部分の病気とも関わっている。それらは「部分と全体」として分別不可能である。ただ全体像のなかで際立っているだけである。

§ 194 外傷によらない外的な症状に対して外用薬は役に立たない。しかし適切なレメディによっても治癒しない局所的な急性病は休眠していたソーラが突然燃え上がったのである。このソーラは慢性病として展開したのだ。

§ 195 このような時は残存する症状と以前の習慣的な病的状態に対して、抗ソーラの治療が必要となる。（慢性病論を参照せよ）